

研究構想図

1) 【 社会的背景 】

- ・情報化、都市化、少子高齢化などの変化により、生活経験の不足や人間関係の希薄化、諸問題を話し合っ解決する力の不足、規範意識の低下が顕著になっている。
- ・生活習慣の確立が不十分であり、学習や将来の生活に対して無気力、不安を感じる子どもが増加している。

2) 【 児童の実態 】

- ・集団のマナーが理解できていない。
 - ・対人関係を築こうとする意欲と技術が低い。
 - ・他人の気持ちを察することが不得意である。
- などの理由によるトラブルが増えつつある。これは、すべての児童に集団生活の社会性が十分定着していないことが影響していると考えられる。

3) 【 指導の実際 】

- ・経験年数の少ない学級担任と、期待する児童の姿のイメージが共有できない。
- ・学級担任を指導する際、指導する側の指導観が体系化できていない。
- ・児童への指導、援助を行うための必要性の根拠が客観的でなく、感覚的なものだけになっている。

4) 【 課題 】

- ① 新学習指導要領の改訂に伴って編成された特別活動（学級活動）の指導内容と、学校教育の要となる道徳の時間、及び体験活動の重視について、十分理解し、その関連性を明らかにすること。
- ② 児童の社会性を高めるための仕組みを明らかにしなければならないこと。
- ③ 先手型の予防開発的な取組を行うための根拠を明らかにしなければならないこと。
- ④ 先手型の予防開発的な取組と学級活動と体験活動及び道徳の時間を結びつけること。
- ⑤ 郡上市における実践モデルプランを作成し、提案すること。

【 願う子どもの姿 】

集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築くことができる子

【 研究 主 題 】

自己の生き方についての考えを深め、集団の社会性を高める特別活動

～児童に社会的スキルを獲得させ、学級活動・体験活動・道徳の時間を機能的に結びつけた指導のあり方～

【 研究 仮 説 】

子ども理解をもとに必要な社会的スキルを選択し、ソーシャルスキル教育と学級活動・体験活動・道徳の時間を機能的に組み合わせて指導すれば、児童は対人関係力が身につく、将来起こるであろう対人トラブルに適應できる社会性を高め、よりよい学級の生活づくりに参画できるであろう。

【 研究 内 容 】

- 1 『特別活動（学級活動）・体験活動・道徳の時間の機能的な結びつき』
 - 新学習指導要領で求められている指導内容の理解と把握
 - 学級活動・体験活動・道徳の時間の結びつき方
- 2 『児童の社会性を高める仕組みと先手型の予防開発的な取組方法について』
 - 児童の社会性を高めるための指導方法
 - ソーシャルスキル教育とソーシャルスキル・トレーニング（SST）の活用
 - 標的スキルの獲得または向上をめざした学級活動（SST）の実践
 - 自作ソーシャルスキル尺度を用いた実態調査結果の分析と考察
- 3 『先手型の予防開発的な取組と学級活動・体験活動・道徳の時間を結びつけた指導方法』
 - ソーシャルスキル教育と学級活動・体験活動・道徳の時間を機能的に結びつけた指導方法の開発
 - ソーシャルスキル教育と学級活動・体験活動・道徳の時間を機能的に結びつけた指導方法の実践結果と考察
 - ソーシャルスキル教育を生かした学級活動・体験活動・道徳の時間を機能的に結びつけた学級活動題材別指導計画「郡上モデルプラン」の作成

はじめに

目 次

第1章 序論	...	1
第1節 研究の主題について		1
第1項 研究主題設定の理由		1
a) 特別活動にかかわる社会的背景から		1
b) 道徳教育における社会的背景から		1
c) 大和北小学校の児童の実態から		2
d) 自分自身の指導の実際から		2
e) 現状の課題		3
第2項 研究の目的と仮説		4
第3項 研究対象		5
第2章 研究方法	...	6
第1節 研究内容与方法について		6
第1項 研究の内容		6
第2項 研究の方法と研究構想図		7
第3章 研究及び実践結果と考察	...	9
第1節 研究内容1「特別活動（学級活動）・体験活動・道徳の時間の結びつき」		9
第1項 特別活動（学級活動）の指導に求められるもの		9
第2項 道徳の時間の指導に求められるもの		13
第3項 体験活動に求められるもの		16
第4項 学級活動・体験活動・道徳の時間の結びつき方		24
第2節 研究内容2「児童の社会性を高める仕組みと先手型の予防開発的な取組方法」		25
第1項 児童の社会性を高める指導方法		25
第2項 ソーシャルスキル教育とソーシャルスキル・トレーニング（SST）の活用		31
a) ソーシャルスキル教育とは		31
b) ソーシャルスキル・トレーニング（SST）とは		33
c) ソーシャルスキル教育とソーシャルスキル・トレーニング（SST）の活用		36
第3項 標的スキルの獲得または向上をめざした学級活動（SST）の実践		38
a) アセスメントの必要性		38
b) アセスメントに基づいた標的スキルの決定		38
c) 標的スキルに基づくSSTを取り入れた学級活動の授業実践		41
d) 2つの学級活動（SST）の授業実践から得たもの		52

第4項 自作ソーシャルスキル尺度を用いた実態調査結果の分析と考察	56
a) 自作のソーシャルスキル尺度の作成	56
b) 調査協力校の結果を使った基礎データの分析	57
c) 調査協力校の結果を使った基礎データの総合的な考察	64

第3節 研究内容3「先手型の予防開発的な取組と

学級活動・体験活動・道徳の時間を機能的に結びつけた指導方法」65

第1項 ソーシャルスキル教育と学級活動・体験活動・道徳の時間を	
機能的に結びつけた指導方法の開発	65
a) ソーシャルスキル教育における学級活動・体験活動・道徳の時間の役割	65
b) ソーシャルスキル教育と学級活動・体験活動・道徳の時間を	
機能的に結びつけた指導方法	68
第2項 ソーシャルスキル教育と学級活動・体験活動・道徳の時間を	
機能的に結びつけた指導方法の実践結果と考察	70
a) ソーシャルスキル教育が機能した学級活動題材別指導計画の具体的な指導方法	70
b) ソーシャルスキル教育が機能した学級活動題材別指導計画の	
具体的な指導方法を用いた授業実践の分析と考察	72
c) 自作ソーシャルスキル尺度を用いた研究実践の分析と考察	86
d) 研究実践における総合的な分析と考察	92
第3項 ソーシャルスキル教育を生かした学級活動・体験活動・道徳の時間を	
機能的に結びつけた学級活動題材別指導計画「郡上モデルプラン」の作成	96
a) 学校行事や総合的な学習の時間等の活動を活用するケースの事例	96
b) 学級の日常的な活動を活用するケースの事例	106

第4章 結論 … 113

第1節 本研究の成果と課題 113

第1項 本研究の成果	113
第2項 本研究の今後の課題	114

謝辞

資料編